

Ⅲ. 研究開発単位Ⅰ：高1課題探究Ⅱ「総合人間科」

第1章

概 要

三小田 博 昭

(1) 目的

課題研究を3年間継続して行う事で、ものごとの本質を捉え、既存の問題と潜在的な問題の発見を行い、論理的・多角的に考える力を育成する。そしてグローバル拠点での探究活動に繋げる。グローバルキャリアモデルのシンポジウムを通して、自己のキャリアパスに関する確固たるイメージを作り上げ、夢や目標を持ち、課題研究の質を深める。1年次の国際バカロレアのTOKを取り入れた授業から、ものごとの本質を掘り下げる体験を通して仮説を設定する力をつける。

《期待される成果》

国際バカロレアのTOKの趣旨を取り入れることで、研究内容を掘り下げ批判的思考力を獲得できる。また、ICTを活用した調査研究やアンケート調査・聞き取り調査、その分析を行うことにより、情報リテラシーやエビデンスに基づいた仮説の検証を行う能力が育成される。同時に、プレゼンテーションや討論を通して、論理的に思考する力、協調的にコミュニケーションをとる力、チームとして協同的に問題解決にあたる力を獲得できる。また、課題研究内容が進路決定等のキャリアに繋がる。

《内容》

6つの領域で行う課題研究の目的は以下の通りである。

生命	医学・健康	人権と共生	生存・差別・障がい
自然と環境	地球・食糧・エネルギー	平和	紛争・民族・国際理解
心	教育・犯罪	文化	言語・芸術・表現

課題研究Ⅰ (中学)

(身近な疑問から地球的規模で多岐にわたる内容)

- ※中学1年 生き方を探る
- ※中学2年 生命と環境
- ※中学3年 国際理解と平和

課題研究Ⅱ (高校)

(6つの領域)

- ・生命
- ・自然と環境
- ・心
- ・人権と共生
- ・平和
- ・文化



海外グローバル拠点

～アジア拠点～

新モンゴル高校 (モンゴル国)

～北米拠点～

East Chapel Hill High School (米国)

(2) 指導体制

高校1年～高校3年それぞれの学年に担当された全教員が関わる。各学年では高校課題探究Ⅱ「総合人間科」を中心に行う責任教員が中心となり指導計画や実施計画を立案する。「総合人間科」は隔週2時間連続で行われる。研究はPBL (Problem Based Learning) に基づいて3年間継続して課題研究を行う。高校1年生では、PBLの基礎基本を学ぶためのPBL入門を徹底して行う。高校2年生になると生徒が6つの領域に分れ、仮説検証型の課題研究を開始する。中間研究発表会を随時実施する。高校3年生では、研究成果を論文にまとめ、研究成果を発表する。

企業・公的機関・国際機関関係者等、グローバルキャリアモデルのリレーシンポジウムを効果的に取り入れることで、課題研究が将来のキャリアの形成に繋がり、探究的な活動の質が深まる。 (文責 三小田博昭)